

道後温泉源泉の秘密を知る

～泉質編～

🌀 泉質の秘密

道後温泉が名湯と呼ばれるにはその「泉質」に秘密があります。その秘密のいくつかを紐解いてみましょう。

一、単純温泉

単純温泉とは、温泉水中の溶存物質質量（ガス性のものを除く）が1,000mg未満で、湧出時の泉温が25℃以上のものをいいます。単純温泉は成分が“いい加減”に含まれ、刺激が少なく、まろやかで万人向きの「天下の名湯」です。

二、極めてアルカリ性

湯がアルカリ性（pH約9）のため、皮膚表面の角質層のたんぱく質が溶け出し、新品の肌、赤ちゃんのような皮膚が表れます。

三、極めて軟水（湯の柔らかさと石けんの泡立ち）

身体を湯船に浸けると「温泉（ゆ）」の柔らかさに驚かれることでしょう。そして、浴槽から出て石けんで体を洗うと泡立ちの良さにさらに驚かれることでしょう。道後温泉は極めて軟水で、石鹼と反応するカルシウムイオンやマグネシウムイオンがほとんど含まれていません。

四、湯上りの爽快感

道後温泉のイオン構成は湯上がりにはジトジト感を感じる吸水性の塩化カルシウムや塩化マグネシウムをほとんど生成しません。また単純泉のため、皮膚の表面に生成される塩類が少ないことも理由の一つです。

出典：真木強（2014）「愛媛の温泉」真木企画

🌀 源泉100%掛け流しの秘密

道後温泉は全国でも珍しい加温も加水もしていない「源泉100%掛け流しの温泉」です。温泉の持つ効果を最大限感じていただくことができます。これを実現している秘密をお教えしましょう。

一、20℃から55℃の18本の源泉

道後温泉は道後地区内の18本の源泉から温泉を汲み上げています。源泉は20℃から55℃と幅があり、かつ、適温を挟んだ温度帯であるため、加温加水をすることなく、源泉同士をブレンドして約42℃の温泉を作り出すことができます。

二、源泉管理職員による高温泉と低温泉のブレンド

高温泉と低温泉を管理し、それをブレンドして本館、椿の湯、そして飛鳥乃湯泉へ送るのは源泉管理職員の仕事。天候や気温、入浴客数により微妙に変化する湯温を一定に保つため、過去のデータと照らし合わせながら、送湯の温度を調整しています。

□本館・飛鳥乃湯泉・椿の湯 源泉100%掛け流しの仕組み

道後地区内の18本の源泉

分湯場

